

2008 年度

事業活動報告
決算報告

2008 年度 事業活動報告

2008 年度、特定非営利活動法人日本ハビタット協会は、9 人の新理事と会長、副会長、専務理事、事務局長が選任され新体制が発足しました。

新体制のもと、力を注いだのは国連ハビタットとの協力の活性化と募金事業です。海外協力事業としては、国連ハビタットとの協力体制が強化されたことにより協力事業を実施できる地域が広がりました。今年度はこれまで皆様より寄せられたご寄付でアフリカにおけるエイズ孤児生活環境改善事業、ミャンマーのサイクロン被災地学校建設事業を開始することができました。

また、広報事業としては、今年度も募金で集められた外貨コインを活用し「コイン分けワークショップ」の実施に力を注ぎました。コインを国別に分別する作業を通して国連ハビタットの事業及び国際協力の重要性を、子どもから大人まで幅広い年代の方々に広報させていただいております。

1. 協力事業

協力事業に関して今年度特筆すべきことは国連ハビタット本部との新しい協力関係を築くことができたことです。2008 年 5 月から 2009 年 12 月までこの件についての話し合いが行われ、2009 年 3 月、国連ハビタット総本部のトップであるアンナ・ティバイジュカ事務局長、日本ハビタット協会の伊木事務局長、タンザニア NGO、TAWLAT のキシラガ代表の 3 者協定に署名しました。これにより、これまでアジア地域でのみ実施していた協力事業をアフリカ地域まで広げることが可能になりました。日本ハビタット協会は国連ハビタット総本部からも重要なパートナーとの評価を受けています。

(1) エイズ孤児生活環境改善プロジェクト

アフリカはエイズ発症の地で、親をエイズで亡くしたエイズ孤児が非常に多く、苦しい生活を強いられています。この状況を改善し、エイズ孤児が安心して生活できるよう、安全な飲料水の確保（とくに雨水貯蔵タンクの設置）、トイレなど衛生設備と居住の改善をはかるプロジェクトに対してこれまで全国の皆様から寄せられた募金、寄付から 2008 年 12 月に約 1,000 万円を国連ハビタットに送金しました。この事業は国連ハビタットアンナ・ティバイジュカ総本部長から最重要課題であるとの協力の依頼を受けたものです。（写真提供：国連ハビタット）



(2) ミャンマーのサイクロン被災地学校建設プロジェクト

2008年5月にミャンマーを襲ったサイクロンは多くの学校を破壊し、かろうじて残った学校建物も被害者の生活施設に使用されています。1年近くたった今でも子どもたちの教育環境が阻害されています。子どもたちが安心して勉強できるよう学校校舎の建設を行う国連ハビタット福岡本部実施のプロジェクトに2009年3月までに約300万円を送金しました。この事業にはワイルド・ワンズの加瀬邦彦様(ケネディ・ハウス社長)が中心になって設立された「12 Strings Spirits」という慈善団体からご寄付をいただいています。(写真提供:国連ハビタット)



(3) 国連ハビタット福岡本部支援事業

2009年3月、財団法人福岡県国際交流センターを通じ、国連ハビタットアジア太平洋事務所の活動経費としての支援金100万円を送金いたしました。

(4) 募金事業

① 募金箱の新設・増設

2008年11月に、成田国際空港に大型募金箱を1基増設し、成田国際空港には大型募金箱が合計4基となりました。成田空港の募金箱に寄せられる募金は外貨と日本円が混在していますが、日本円だけでも年間総額約180万円となります。



さらに、2009年3月から大型募金箱2基を関西国際空港の国際線出発区域に設置させていただくことができました。その他福岡空港、セントレア空港、会社、病院、商店等にも募金箱を設置しています。募金箱による募金総額は2008年度約400万円でした。一度設置するとその後募金は絶え間なく入るものなので重視しています。なお、昨年11月からの新設大型募金箱は、新デザインのものに変更しました。2008年度には外貨コインの円貨交換に努力し、目覚ましい進展が得られました。

② 書き損じハガキ

書き損じハガキは2枚につき45円の寄付となります。今年度はミャンマーのサイクロン被害の復興支援、中国四川省大地震の復興支援に「書き損じはがき」のご協力を呼びかけました。大手企業のボランティアグループが中心になってお送り下さる等のご協力から今年度は404枚の書き損じハガキ、615枚の未使用切手をご寄付いただくことができました。

2. 広報事業

(1) コイン分けワークショップ・国際理解学習

昨年度に続き今年度も空港の募金箱に寄付された世界中のコインを国別に分別し、募金として役立つために企業、学校等でコイン分けワークショップを開催しました。この事業は、国連ハビタットの活動、国際協力の重要性の理解につながり、年齢層を問わず小さな子どもからご高齢の方まで気軽に参加できると好評を得ています。今年度は以下の通り実施しました。

◆修学旅行の受け入れ

2008年4月24日、丸森町立大内中学校、5月14日福知山市立桃映中学校、6月9日扶桑町立扶桑中学校の修学旅行生を対象にコイン分けを通しての国際協力体験講座を実施しました。



◆国際理解教室

2009年2月4日東京女学館中学校、3月5日日本文理学院高等部で国際理解教室を開催しました。コイン分けの他、世界の現状や国連ハビタットの果たす役割、及び国際協力の重要性について学習しました。

◆企業の社会貢献活動

2008年8月9日、三井物産㈱において、社員とその家族の方々を対象にワークショップを実施しました。三井物産㈱では以前から、海外出張の際に使いきれなかったコインを募金していただいております。家族が参加できる国際的な協力活動として好評でした。



(2) 都市フォーラムへの参加

2008年11月3日～6日、中国南京市で開催された第4回世界都市フォーラムにマリ・クリスティーヌ親善大使と伊木事務局長が出席しました。

日本政府の展示ブースにポスター掲示を行ったほか、会議内での発言等を通して日本ハビタット協会の活動の広報に努めました。

(3) まちづくり通信の発行



今年度は「まちづくり通信」Vol. 14を10,000部発行しました。発送費を軽減するために、発送先を絞り、効率的な広報が実施できるように努力しました。

直接の発送のほかに、マリ・クリスティーヌ親善大使の職務上の講演先でも配布し、支援者の増加につながっています。

(4) メディアによる活動紹介

楽天ゴールデンイーグルスの岩隈久志投手が社会貢献活動、とくに国際的社会貢献を積極的に行った野球選手に贈られるゴールドenspirit賞を受賞されました。岩隈投手は、ハビタットフレンズ仙台に1勝するごとに10万円の寄付をお寄せくださっています。2008年11月20日に東京で行われた授賞式には仙台からもハビタットフレンズ仙台のメンバーが多数出席し、ステージ上で協会副会長と山本博子専務理事が挨拶、祝辞を述べる機会がありました。ハビタットの知名度を向上するよい効果が得られました。全国紙および全国ネットのあるテレビ局による報道が度重なり、当協会の名前も引用されて大きな広報効果がありました。



(写真提供：スポーツ報知)

報知新聞 2008年10月30日:岩隈投手ゴールドenspirit賞受賞

スポーツ報知 2008年11月21日:岩隈投手ゴールドenspirit賞授賞式

読売新聞 2008年12月3日:「岩隈図書館」21勝の原動力

日本テレビ 2008年12月 岩隈投手インタビュー

宮城テレビ 2008年12月30日 岩隈投手インタビュー

日経新聞 2009年3月4日夕刊:駆ける魂 楽天投手岩隈久志

(5) 副会長・国連親善大使の講演



協会副会長（国連ハビタット親善大使）は講演を依頼されるたびに、資料を配って国連ハビタットに関する説明をしています。2008年には12回の講演で、延べ2,750人の聴衆が副会長から国連ハビタットの話をお聞きしました。講演後に問い合わせやご寄付等もあり、大きな広報効果があげられました。

(6) リーフレットチラシ類作成

今年度はリーフレットを5,000部、チラシ10,000部、募金箱用カード1,000部を作成しました。イベント等の際には日本ハビタット協会のオリジナルリーフレット、チラシに加え、国連ハビタットのリーフレットも同時に配布しました。

(7) ホームページ

ホームページを通して活動をご理解いただくために、新しいニュースを常に掲載できるように努めました。

ホットな情報の掲載はもちろんのこと、「まちづくり通信」の閲覧、活動報告書の閲覧等も可能にし、多くの方々にハビタットの活動をご理解いただけるように努力を重ねています。ホームページを通して活動に参加される方も増えています。

3. 展示イベントへの参加

今年度は、以下のイベントに参加し、広報を行ないました。

① グローバルフェスタ 2008

10月4日～5日、日比谷公園で開催されたグローバルフェスタにブース出展しました。参加者とともにテント内でコイン分けを行い、国連ハビタットの活動の広報に努めました。

② 福岡空港写真展

2009年1月29日～2月11日、福岡空港に於いてハビタットの活動に関する写真展を開催しました。



4. 組織活動

① 会員

会員の増強に向け、一年間努力を重ねてきました。しかし、今年度は法人会員、個人会員とも昨年度に比べて減少という状況でした。会員の増強は今後しっかりと取り組んでいかなければならない課題です。

今年度の会員は以下のとおりです。

法人会員：5団体（前年度比5団体減）

個人会員：99名（前年度比112人減）

② ハビタットフレンズ

国連ハビタット、日本ハビタット協会の活動に賛同し、自分たちにできることで活動にご協力くださるのがハビタットフレンズです。

東京、仙台、名古屋、熊本などでハビタットフレンズがイベントの開催や補佐、募金の回収、コイン分け等の協力で日本ハビタット協会の活動を支援していただいております。



今年度は若者のグループ「ハビタットフレンズユース」が誕生し、2か月に1度の割合で集まり、コイン分け等を行っています。

岩隈投手の授賞式に参加したハビタットフレンズ仙台のメンバー（写真提供：スポーツ報知）

5. 事務局体制

2008年度日本ハビタット協会は専務理事、事務局長とパート職員5名で運営を行いました。

6. 協会の運営

新体制は、協会が会員、ハビタットフレンズなどのボランティア精神を尊重し、ボランティアの力を結集しながら運営しています。ボランティアの皆様から次のようなご協力をいただき、感謝しています。

- ◇ 募金箱に集まったコインの回収（成田空港、中部空港、熊本空港）
- ◇ 月2～4回行われるボランティアデーに参加してコインの仕分け、ニュース・レターの発送など（毎回数人～10人参加）
- ◇ 募金箱の新規設置
- ◇ ハビタットフレンズが自主的に組織され、積極的に活動を展開しました。
（事務局がハビタットフレンズに適切な支援を行い、ハビタットフレンズの強化、拡大をはかりました。）

ボランティアは随時募集しています。皆様のご協力をよろしくお願いします。

2008年度 特定非営利事業に係る収支決算書

(2008年4月1日～2009年3月31日)

特定非営利活動法人 日本ハビタット協会

科目	予算額	決算額	差異	備考
I 収入の部				
1. 入会金収入				入会金なし
2. 会費収入				
正会員	800,000	399,000	401,000	個人会員 99人
賛助会員	800,000	270,000	530,000	法人会員 5団体
準会員				会費なし
3. 事業収入				
①アフガニスタン等開発途上国の再建復興支援事業	3,500,000	12,514,954	△ 9,014,954	
②ハビタット広報事業	1,700,000	1,815,435	△ 115,435	
4. 寄付金・補助金収入		30,793	△ 30,793	
5. 雑収入		19,117	△ 19,117	利息
当期収入合計 (A)	6,800,000	15,049,299	△ 8,249,299	
前年度繰越金		16,480,806		
収入合計 (B)		31,530,105		
II 支出の部				
1. 事業費		14,642,831		
①アフガニスタン等開発途上国の再建復興支援事業	2,000,000	13,959,544		アフリカのAIDS孤児支援事業 ミャンマーの学校建設支援事業
②ハビタット広報事業	1,000,000	683,287		まちづくり通信、展示、ワークショップ
2. 管理費		5,554,977		
家賃	100,000	121,104		ふくおか会館内 8㎡
役員報酬	0	0		
事務人件費	3,000,000	3,026,000		パート職員5名アルバイト1名
法定福利費	0	174,960		
通信費	200,000	393,821		
消耗品費	100,000	577,508		パソコン2台
旅費交通費	200,000	1,092,229		無給職員2名、パート職員5名アルバイト1名
理事会・総会運営費	30,000	28,350		会場費
事務局運営費	50,000	137,183		
その他	30,000	3,822		租税公課
3. 予備費	50,000	0		
当期支出合計 (C)	6,760,000	20,197,808		
当期収支差額 (A) - (C)		△ 5,148,509		
次期繰越収支差額 (B) - (C)		11,332,297		
次期繰越金		11,332,297		

(単位：円)